杉田玄白記念公立小浜病院　新改革プランに対する
平成２９年度実績評価書

平成３０年９月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

◎　はじめに

新公立病院改革プラン（以下、「改革プラン」という。）は、平成２７年３月に総務省において策定された「新公立病院改革ガイドライン」に沿って平成２９年３月に策定され、その取り組み状況についての点検・評価を行う為、評価委員会が設置された。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表者等を含む５名の委員で構成され、平成２９年度決算の状況を含め、改革プランの実施状況の点検・評価を実施した。

１．　評価区分の基準

「計画、実績」「改革プランにおける数値目標等（実績、目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように４段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

2．　総合評価

今年度の経常収支比率等の経営状況は目標を下回る評価となった。個々の評価結果に対して改善を目指すために病院経営幹部である病院長、看護部長、事務部長が中心となり、経営指標に係る数値目標について、それぞれの実施責任者を決め、毎月、少なくとも半期毎の数値的、項目毎の自主的検証を行うことを具申する。

さらに、早い時期に、地域医療構想を踏まえた病床区分・病床数を含め、経営形態・事業形態の抜本的な検討をしていただきたい。

その一方で、常勤医師ならびに研修医等の医師確保、看護師確保による診療機能の充実により、経営改善を図るとともに、嶺南医療圏・若狭地域唯一の総合病院として、第一次から第三次医療までを担い高度急性期医療から慢性期医療まで幅広い医療を提供する基幹病院としての役割を担っていただきたい。

Ⅰ．「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」

杉田玄白記念公立小浜病院の役割は、「嶺南医療圏・若狭地域唯一の総合病院として、第一次から第三次医療までを担い高度急性期医療から慢性期医療まで幅広い医療を提供する。」ことである。

① 入院医療　高度急性期病床、急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟および精神病棟を有機的に運用する。

・前年度実績よりも患者数・収益ともに増加しているが、目標数値には達していない。平成30年3月から一般病床の増床、療養病床の減床を実施したとのことであるが、担当者を決めて今後継続的な効果分析を行うことが必要である。

② 外来医療　主な診療科に加え比較的需要の多い特殊な科（専門外来）も開設する。

・耳鼻いんこう科や皮膚科外来の診療体制の改善を実施し、患者数・収益ともに目標値を達成できており、評価できる。

③ 救急医療　救命救急センターとして1年365日24時間すべての救急患者を受け入れ、総合的な救急医療を提供する。

・救急総合診療科の医師を6名確保し、救急患者の受入れに努めている点は高く評価できる。しかし、今後は欠員となった内科医師確保についても注力する必要がある。

④ へき地医療　へき地医療拠点病院として、自らへき地医療を実施するとともに遠隔地は地元医療機関に委託して、へき地医療を確保する。

・地域の高齢化・過疎化により、診療回数および患者数は減少傾向にあるが、交通手段の乏しい無医地区への巡回診療や、診療所への医師派遣は重要であり、高く評価できる取り組みである。

⑤ 災害医療　災害医療災害拠点病院として、当地域での災害医療を提供するとともに、災害医療派遣チームにより被災地での救護活動も実施する。

・災害拠点病院として、ＤＭＡＴの活動や各種訓練・研修会への参加など積極的に取り組んでいる実績は、高く評価できる。

⑥ 周産期医療　地域周産期母子医療センターとして、通常分娩等の他、ハイリスク分娩等高度な周産期医療を提供する。

・地方の医療機関で産科医師不足が深刻化する中、産科医師2名を維持しながら地域医療に貢献していることは高く評価できる。

⑦ 小児医療　一般小児疾患に広く対応する他、特に小児療育施設において発達障害等の治療・療育に注力する。

・地方の医療機関で小児科医師不足が深刻化する中、小児科医師3名を維持しながら地域医療に貢献していることは高く評価できる。また、休日の小児救急や、嶺南地域の小児療育医療への取り組みも高く評価できる。

⑧ 5疾病への対応　がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病については、質の高い医療を提供し、極めて高度で特殊な疾患はより高次の病院へ円滑に紹介する。

精神医療については、認知症への対応を強化する。

・福井や京都の医学部附属病院（特定機能病院）と連携し、5疾病へ適切に対応している点は高く評価できる。また5疾病の一つとして後で追加された精神医療について、精神科医師、精神科認定看護師、臨床心理士等のチーム（精神科リエゾン）により積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。

⑨ 感染症への対応　結核病床、感染症病床を維持し、一般的な感染症の他、新型インフルエンザ等の新型ウイルス疾患にも対応する。

・利用率は低いものの結核病床・感染病床を維持し、嶺南地域の医療を担っている点は評価できる。

⑩ 健診業務　健診体制の整備をはかり、病気の予防、早期発見に努める。

・前年度よりも協会けんぽの枠を拡大し、受診者数が増加している点は評価できるが、今後も担当者を決めて「ふるさと納税の特典」など内容や価格等について検討し、より多くの方に利用してもらえるよう努める必要がある。

⑪ 研修機能　職員教育に尽力し、職員の資質向上に努める。

・研修医や看護師をはじめとした職員教育に尽力し、職員の資質向上に努力している点は評価できる。また地域住民への医療情報の発信の場を設けるなどの取り組みも評価できる。

⑫ 医療従事者の養成・確保　看護師の養成・確保。

・併設の高等看護学院との連携等により、看護師の養成および確保に努力している点は評価できる。

⑬ 地域包括ケアシステム　地域の医療機関および介護施設等との連携を推進する。

・紹介率・逆紹介率ともに前年度より数値が伸びており、目標値をクリアできている。嶺南地域の地域性を考慮すると、紹介率・逆紹介率の数値は頭打ちとなる可能性あるが今後も注力が必要である。

⑭ 在宅医療　訪問看護・訪問診療の開始、訪問看護ステーションの設置。

・人的な要因で在宅医療への取り組みが困難とのことであるが、杉田玄白記念公立小浜病院がこの地域の中心となり、担当者を決めて医師会と協議・連携し、役割分担をすることで地域医療を担って頂きたい。

⑮ 地域連携クリテイカルパス　福井脳卒中連携協議会に参加し、パスを利用しての県内病院・診療所と相互の紹介・逆紹介を行っていく。

・脳卒中連携パスについての取り組みは評価できるが、今後は担当者を決めてがん地域連携クリティカルパス等他のパス導入も検討し、実績を挙げることが必要である。

⑯ 地域貢献　安心して子供を産み育てられるよう小児・周産期医療を維持・強化する。

・地方の医療機関で医師不足が深刻化する中、産科２名・小児科３名を維持しながら、地域医療に貢献していることは高く評価できる。

Ⅱ.「経費削減・抑制対策」

① 給与費の抑制

人件費に見合う収益を見込める職種以外は増員しない。

業務の見直しと効率化により超過勤務手当を削減する。

・職員数・医業収益が増加しているとはいえ、給与費の対医業収益比も上がっているため、今後は業務の見直しや

効率化について、更なる取り組みの上、超過勤務手当の削減に注力する必要がある。

② 経費の削減

薬品費については値引き交渉を強化する。

材料費については「診療材料委員会」の組織と権限を強化し、材料の適正使用と節減に努めている。

経費については医療機器等の保守契約の見直し、委託費・光熱水費の削減を図る。

・薬品・診療材料については、価格交渉や採用品の見直し後発品の使用などへの取り組みについて評価できる。また、医療機器保守契約についても、内容の見直しや臨床工学技士の積極的な関わりが評価できる。

Ⅲ.「収入増加・確保対策」

① 診療報酬の査定、請求漏れを減少させる。

・レセプトチェックシステムの導入などによる査定、請求漏れ対策は評価できるが、この問題には医事職員だけでなく、診療部や看護部でも担当者を決め積極的に関与する取り組みが必要である。

② 人間ドック等の健診収益の増加を図る。

・前年度よりも枠を拡大し、受診者数が増加している点は評価できるが、今後も内容や価格等について検討頂き、より多くの方に利用してもらえるよう努めて頂きたい。健診後のフォローとして、精密検査や入院治療も可能であるといったＰＲも必要である。

③ 病棟稼働率の増による入院収益確保。

・年度内に病床区分変更の実施など、稼働率向上に向けた取り組みは評価できるが、数値的には、病床種別によっては目標値を下回っているところも見受けられるので、今後、一層の努力が必要である。

④　紹介入院患者を確保するため、開業医等との連携を強化する。

・紹介率・逆紹介率ともに前年度より数値が伸びており、目標値をクリアできている。嶺南地域の地域性を考慮すると、紹介率・逆紹介率の数値は頭打ちとなる可能性あるが今後も注力が必要である。

改革プラン数値目標に対する実績評価

（単位：百万円）

杉田玄白記念公立小浜病院		平成２８年度 決算	平成２９年度 プラン（A）	平成２９年度 決算（B）	決算-プラン B－A
収益的収支	病院事業収益・・・（a）	7,520	7,944	7,655	▲ 289
	うち、外来収益	1,866	1,920	1,931	11
	うち、入院収益	4,245	4,577	4,345	▲ 232
	うち、医業外収益	987	979	960	▲ 19
	病院事業費用・・・（b）	7,608	7,944	7,775	▲ 169
	うち、給与費	3,616	3,837	3,762	▲ 75
	うち、材料費	1,247	1,349	1,255	▲ 94
	うち、経費	824	934	815	▲ 119
	うち、減価償却費	682	684	684	0
	純損益・・・（c）＝（a）－（b）	▲ 88	0	▲ 120	▲ 120
資本的収支（４条予算対応）		▲ 605	▲ 569	▲ 562	7
累積欠損金		1,795	1,820	1,915	95

財務に係る数値目標	平成２８年度 決算	平成２９年度 プラン（A）	平成２９年度 決算（B）	決算-プラン B－A	自己評価	委員会評価
経常収支比率	98.8	100.0	98.5	▲ 1.5	×	×
経常収支比率（減価償却費を除く）	108.6	109.4	108.0	▲ 1.4	△	△
医業収支比率	92.1	91.8	92.1	0.3	◎	○
職員給与費対医業収益比率	55.3	55.1	56.2	1.1	×	×
病床利用率（一般）	87.3	90.4	89.6	▲ 0.8	△	△
病床利用率（療養）	75.1	78.0	74.9	▲ 3.1	×	×
病床利用率（精神）	81.2	85.0	81.8	▲ 3.2	×	×
外来患者数（１日平均）	782.8	790.0	789.5	▲ 0.5	△	△

杉田玄白記念公立小浜病院　新改革プランに対する平成29年度実績評価シート

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

嶺南医療圏・若狭地域唯一の総合病院として、第一次から第三次医療までを担い、高度急性期医療から慢性期医療まで幅広い医療を提供する。

<table>
<tr><th>役割と計画</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr>
<td>① 入院医療
高度急性期病床、急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟および精神病棟を有機的に運用する。</td>
<td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29度</th></tr>
<tr><td>入院延患者数</td><td>130,961人</td><td>133,782人</td><td>135,505人</td></tr>
<tr><td>1日平均入院患者数
(1日の目標数値)</td><td>358人
(370人)</td><td>367人
(380人)</td><td>371人
(380人)</td></tr>
<tr><td>入院収益</td><td>4,169,499千円</td><td>4,244,835千円</td><td>4,345,328千円</td></tr>
<tr><td>1人1日当たり入院収益
(1日の目標数値)</td><td>31,837円
(31,000円)</td><td>31,729円
(33,000円)</td><td>32,068円
(33,000円)</td></tr>
<tr><td>一般病棟利用率</td><td>85.8%</td><td>87.3%</td><td>89.6%</td></tr>
<tr><td>療養病棟利用率</td><td>70.2%</td><td>75.1%</td><td>74.9%</td></tr>
<tr><td>精神病棟利用率</td><td>81.3%</td><td>81.2%</td><td>81.8%</td></tr>
</table>
</td>
<td>①入院患者数と入院収益は毎年増加傾向にあるが、平成29年度においては入院患者数、入院収益ともに目標数値には達しなかった。
②平成30年3月より、救急時にスムーズな入院をおこなえるよう、病床区分を変更した。（一般病床を50床増床し利用率の低い療養病床を50床減床）</td>
<td>×</td>
<td>×</td>
</tr>
<tr>
<td>② 外来医療
主な診療科に加え比較的需要の多い特殊な科（専門外来）も開設する。</td>
<td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29度</th></tr>
<tr><td>外来延患者数</td><td>182,377人</td><td>189,430人</td><td>191,848人</td></tr>
<tr><td>1日平均外来患者数
(1日の目標数値)</td><td>751人
(810人)</td><td>783人
(780人)</td><td>790人
(780人)</td></tr>
<tr><td>外来収益</td><td>1,837,667千円</td><td>1,865,987千円</td><td>1,930,636千円</td></tr>
<tr><td>1人1日当たり外来収益
(1日の目標数値)</td><td>10,076円
(8,100円)</td><td>9,851円
(10,300円)</td><td>10,063円
(10,000円)</td></tr>
</table>
</td>
<td>①外来患者数と外来収益は毎年増加傾向にある中、平成29年度においては外来患者数、外来収益ともに目標数値を達成することができた。
②平成29年4月より、耳鼻いんこう科の診療を毎日行える体制とした。
③平成29年4月より、皮膚科の診療日を1日増やし、火曜日も診療できる体制とした。
④平成29年9月より、遺伝子外来を廃止した。</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th>役割と計画</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr>
<td>③ 救急医療
救命救急センターとして1年365日24時間すべての救急患者を受け入れ、総合的な救急医療を提供する</td>
<td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29度</th></tr>
<tr><td>救急患者数</td><td>14,467人</td><td>13,989人</td><td>13,892人</td></tr>
<tr><td>1日平均救急患者数</td><td>39.5人</td><td>38.3人</td><td>38.1人</td></tr>
<tr><td>救急車搬送件数</td><td>2,049人</td><td>1,954人</td><td>1,976人</td></tr>
</table>
</td>
<td>①平成29年4月より救急総合診療科医師が6名体制となり、救急患者をスムーズに受け入れることができた。
②一時期、循環器内科医師が減員となり急性心筋梗塞への対応が困難な時期があったが、近隣病院との連携により対応した。</td>
<td>△</td>
<td>△</td>
</tr>
<tr>
<td>④ へき地医療
へき地医療拠点病院として、自らへき地医療を実施するとともに遠隔地は地元医療機関に委託して、へき地医療を確保する。</td>
<td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29度</th></tr>
<tr><td>診療回数</td><td>158回</td><td>130回</td><td>120回</td></tr>
<tr><td>延患者数</td><td>787人</td><td>729人</td><td>693人</td></tr>
<tr><td>1回平均患者数</td><td>5.0人</td><td>5.6人</td><td>5.7人</td></tr>
</table>
</td>
<td>①へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当しているが、地域の過疎化等により受診者は減少している。
②巡回診療を休止した地区は、河内・奥杉山・音海の3地区となった。
③交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。
④名田庄診療所の要請により医師を派遣している。</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td>⑤ 災害医療
災害拠点病院として、当地域での災害医療を提供するとともに、災害医療派遣チームにより被災地での救護活動も実施する。</td>
<td>活動記録
<table>
<tr><th>月</th><th>日</th><th>研修名</th><th>参加者</th></tr>
<tr><td>6</td><td>21</td><td>技能維持研修</td><td>受講4名、講師1名</td></tr>
<tr><td>8</td><td>19</td><td>ホスピタルMIMMS研修</td><td>病院長、看護部長、医療技術部長、事務部長</td></tr>
<tr><td>8</td><td>20</td><td>1 Day MIMMS研修</td><td>医師1名、看護師5名</td></tr>
<tr><td>8</td><td>27</td><td>福井県総合防災訓練</td><td>1チーム参加、コントローラー1名派遣</td></tr>
<tr><td>9</td><td>7～8</td><td>統括DMAT研修</td><td>2名が統括DMATの認定を受ける</td></tr>
<tr><td>9</td><td>20～23</td><td>新規隊員要請研修（神戸）</td><td>福井県混成チームにて1名養成
護師1名を派遣</td></tr>
<tr><td>10</td><td>8～9</td><td>中部ブロック実働訓練</td><td>1隊が参加（岐阜県全域）</td></tr>
<tr><td>10</td><td>21～22</td><td>技能維持研修（名古屋）
統括技能維持研修（名古屋）</td><td>統括技能維持研修に1名が参加</td></tr>
<tr><td>11</td><td>22</td><td>中部管区警察局による災害対応訓練（小浜）</td><td>1チーム参加</td></tr>
<tr><td>12</td><td>23～24</td><td>ロジスティックチーム養成研修（立川市）</td><td>1名受講し認定を受ける</td></tr>
<tr><td>1</td><td>15</td><td>県DMAT連絡協議会</td><td>参加</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td>
<td>平成30年3月31日現在の日本DMAT認定隊員数は、
医師　5名（うち、統括DMAT有資格者3名）
看護師　9名、業務調整員　6名（うち、タスク登録者3名）となった。
統括DMATとして2名の医師が認定され、災害時の地域医療提供体制に大きく貢献することが可能となった。
不足気味のDMAT看護師を1名増員できたことにより、有事でのチーム編成が容易となった。
タスク登録者が所属していることにより、訓練や研修では準備段階から参画できるようになった。
今後は、看護師の有資格者ならびにタスク登録者の養成を図りたいと考えている。</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th>役割と計画</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>2</td><td>6～13</td><td>豪雪による嶺北での医療体制の支援活動</td><td>県内医療活動のバックアップの為、情報収集業務等を実施</td></tr>
<tr><td colspan="2">随時</td><td></td><td>（2ヵ月に1回程度の資機材チェック等</td></tr>
</table>
</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>⑥ 周産期医療
地域周産期母子医療センターとして、通常分娩等の他、ハイリスク分娩等高度な周産期医療を提供する。</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td rowspan="7">産科医療</td><td>外来延患者数</td><td>6,282人</td><td>6,384人</td><td>5481人</td></tr>
<tr><td>入院延患者数</td><td>2,725人</td><td>2,779人</td><td>2,522人</td></tr>
<tr><td>外来・入院収益</td><td>145,485千円</td><td>158,824千円</td><td>128,460千円</td></tr>
<tr><td>正常分娩</td><td>110</td><td>91</td><td>81</td></tr>
<tr><td>異常分娩</td><td>38</td><td>38</td><td>39</td></tr>
<tr><td>帝王切開</td><td>37</td><td>45</td><td>27</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td>185</td><td>174</td><td>147</td></tr>
</table>
※異常分娩とは出血量が500ml以上の分娩を指す
</td><td>地方の医療機関で産科医師不足が深刻化する中、産科医2名を維持しながら地域医療を担っている。
（平成30年4月より3名体制となった。）
地域の妊産婦が安心して分娩できるよう医療体制を維持していく。</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>⑦ 小児医療
一般小児疾患に広く対応する他、特に小児療育施設において発達障害等の治療・療育に注力する。</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td rowspan="4">小児医療</td><td>外来延患者数</td><td>12,706人</td><td>13,874人</td><td>13,966人</td></tr>
<tr><td>入院延患者数</td><td>1,824人</td><td>2,480人</td><td>1,593人</td></tr>
<tr><td>外来・入院収益</td><td>132,906千円</td><td>188,183千円</td><td>152,547千円</td></tr>
<tr><td>小児療育利用者数</td><td>1,182人</td><td>1,467人</td><td>1,802人</td></tr>
</table>
</td><td>地方の医療機関で小児科医師不足が深刻化する中、小児科医3名を維持しながら地域医療を担っている。
地元の医師会と連携し休日の小児救急を担当する他、嶺南地域の小児療育医療に取り組んでいる。</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>役割と計画</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr>
<td>⑧ 5疾病への対応
がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病については、質の高い医療を提供し、極めて高度で特殊な疾患はより高次の病院へ円滑に紹介する。
精神医療については、認知症への対応を強化する。</td>
<td>高次病院への紹介数
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>福井大学医学部付属病院</td><td>321</td><td>360</td><td>425</td></tr>
<tr><td>京都大学医学部附属病院</td><td>170</td><td>150</td><td>161</td></tr>
</table>
精神科リエゾンチーム活動実績
<table>
<tr><th></th><th>平成28年度（10～3月）</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>患者数</td><td>26人</td><td>67人</td></tr>
<tr><td>延回診数</td><td>101回</td><td>206回</td></tr>
</table>
対象疾患別人数
<table>
<tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>うつ病</td><td>7 件</td><td>14 件</td></tr>
<tr><td>せん妄</td><td>12 件</td><td>19 件</td></tr>
<tr><td>認知症</td><td>7 件</td><td>14 件</td></tr>
<tr><td>統合失調症</td><td>2 件</td><td>12 件</td></tr>
<tr><td>神経症</td><td>0 件</td><td>13 件</td></tr>
<tr><td>自殺企図</td><td>0 件</td><td>2 件</td></tr>
<tr><td>睡眠障害</td><td>3 件</td><td>4 件</td></tr>
<tr><td>非定型精神病</td><td>0 件</td><td>1 件</td></tr>
<tr><td>パニック傷害</td><td>0 件</td><td>1 件</td></tr>
</table>
</td>
<td>高度で特殊な疾患はより高次の病院へ紹介している。
精神医療については、デイケア等の利用を考慮し入院患者の早期退院、社会復帰を目指している。
また、精神科医師、精神科認定看護師、臨床心理士等のチーム（精神科リエゾン）により、一般病棟入院中の「せん妄」「抑うつ」「認知症」「その他精神疾患を有する患者」等を対象として、入院中から退院後について「診療実施計画書」「治療計画書」を立て、チームで終了時指導、又は退院時指導を行い、病診連携を図っている。</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td>⑨ 感染症への対応
結核病床、感染症病床を維持し、一般的な感染症の他、新型インフルエンザ等の新型ウィルス疾患にも対応する。</td>
<td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>結核病床入院延患者数</td><td>143人</td><td>211人</td><td>164人</td></tr>
<tr><td>感染症病床入院延患者数</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr>
</table>
</td>
<td>結核病床の利用率は低いが、嶺南地域の結核医療を担っている。</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th>役割と計画</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr>
<td>⑩ 健診業務
健診体制の整備をはかり、病気の予防、早期発見に努める。</td>
<td>（単位：件数）
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>1日ドック</td><td>671</td><td>672</td><td>687</td></tr>
<tr><td>2日ドック</td><td>45</td><td>47</td><td>33</td></tr>
<tr><td>PET健診</td><td>26</td><td>41</td><td>17</td></tr>
<tr><td>脳ドック</td><td>67</td><td>72</td><td>73</td></tr>
<tr><td>1日ドック+脳ドック</td><td>50</td><td>43</td><td>52</td></tr>
<tr><td>2日ドック+脳ドック</td><td>19</td><td>16</td><td>17</td></tr>
<tr><td>1日ドック+PET</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>2日ドック+PET</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>特定健診</td><td>65</td><td>71</td><td>62</td></tr>
<tr><td>協会けんぽ</td><td>247</td><td>304</td><td>394</td></tr>
<tr><td>一般健康診断</td><td>197</td><td>198</td><td>160</td></tr>
<tr><td>市町村個別検診</td><td>25</td><td>51</td><td>61</td></tr>
<tr><td>計</td><td>1,412</td><td>1,515</td><td>1,556</td></tr>
<tr><td>年間目標数</td><td>1,449</td><td></td><td>1,600</td></tr>
</table>
</td>
<td>①平成29年度より、協会けんぽの枠を増加し受け入れ体制を強化した結果、協会けんぽの件数は前年度比1.3倍となった。
②1日ドック、2日ドック、PET健診の予約枠に余裕があるため、地域の企業訪問等を実施し受診を呼び掛けていく。</td>
<td>△</td>
<td>△</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th>役割と計画</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr>
<td>⑪ 研修機能
職員教育に尽力し、職員の資質向上に努める。</td>
<td>①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを平成22年度に購入し、研修に利用している。
②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会の開催や講演会などの受講が、当院に居ながら可能になり、継続的に利用している。
③研修医については、平成30年度は6名となった。
平成29年度は前期研修修了者1名が後期研修に残った。
④医師の国内研修制度を整備し、研修を推奨している。
（単位：人）
<table>
<tr><th></th><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td rowspan="5">学会出席</td><td>医師</td><td>246</td><td>204</td><td>242</td></tr>
<tr><td>看護師</td><td>209</td><td>188</td><td>99</td></tr>
<tr><td>医療技術員</td><td>133</td><td>249</td><td>179</td></tr>
<tr><td>事務、他</td><td>110</td><td>109</td><td>61</td></tr>
<tr><td>計</td><td>698</td><td>750</td><td>581</td></tr>
<tr><td rowspan="4">臨床研修医</td><td>病院単独</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td></tr>
<tr><td>たすきがけ医科</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td></tr>
<tr><td>〃　歯科</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr>
<tr><td>計</td><td>9</td><td>6</td><td>5</td></tr>
<tr><td colspan="2">嶺南医療振興財団奨学生</td><td>2</td><td>2</td><td>6</td></tr>
<tr><td colspan="2">救急救命士研修</td><td>7</td><td>11</td><td>13</td></tr>
</table>
</td>
<td>①臨床研修指定病院として、地域医療に貢献できる医師の育成に努め、指導医の確保および育成を図った。

②地域性の問題を解消し医療知識の向上が図れるように、医療職を対象とした京大連携わかさセミナーを毎月開催している。

③今後も研修医の指導を充実させ、研修医を確保・定着を図るとともに嶺南医療振興財団の奨学生を確保する。

④看護師については、引き続き認定看護師の養成に努力しており、平成29年度には救急看護認定看護師の資格を取得した他、認知症ケア・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の研修に参加、認定看護師サードレベルに1名、セカンドレベルに2名参加した。

⑤平成29年7月1日には、地域住民の方向けに健康フェアを開催、整形外科医の講演と無料健康チェックを行った。（平成30年度・・・10月末に予定）</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td>⑫ 医療従事者の養成・確保
看護師の養成・確保</td>
<td>（単位：人）
<table>
<tr><th></th><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td rowspan="3">看護師</td><td>新採用</td><td>20</td><td>26</td><td>10</td></tr>
<tr><td>退職</td><td>15</td><td>13</td><td>11</td></tr>
<tr><td>増減</td><td>5</td><td>13</td><td>−1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">看護学生</td><td>入学生</td><td>28</td><td>27</td><td>27</td></tr>
<tr><td>卒業生</td><td>35</td><td>25</td><td>25</td></tr>
<tr><td>小浜病院組合就職者</td><td>16</td><td>5</td><td>12</td></tr>
</table>
</td>
<td>①看護師の確保については、7：1看護体制を維持するための人数確保に努力している。引き続き、若狭高看の卒業生を確保するとともに、他の看護学校・看護大学の新卒者や潜在看護師の確保を図る。

②隣接する公立若狭高等看護学院での看護師養成において、当地域で従事する優れた看護師を育成するため、実習病院施設として、継続的な支援・協力を行っており、13年連続で国家試験合格率が100％の実績を残せた。
今後も、卒業生の獲得を図る。</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th>役割と計画</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr><td>⑬ 地域包括ケアシステム
地域の医療機関および介護施設等との連携を推進する。</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>紹介患者数</td><td>4,890人</td><td>4,498人</td><td>4,552人</td></tr>
<tr><td>逆紹介患者数</td><td>3,074人</td><td>3,314人</td><td>3,614人</td></tr>
<tr><td>紹介率</td><td>25.4%</td><td>27.0%</td><td>29.1%</td></tr>
<tr><td>逆紹介率</td><td>26.4%</td><td>18.2%</td><td>22.1%</td></tr>
</table>
</td><td>①地域の医療機関や介護施設との連携を図るとともに、連絡・協議を行う体制作りに取り組んでいる。
②紹介率40%、逆紹介率30%を目指すとともに、高額医療機器や一般病床の共同利用も協議していきたい。</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>⑭ 在宅医療
訪問看護・訪問診療の開始、訪問看護ステーションの設置</td><td></td><td>①医師・看護師が充足していないため、訪問看護・訪問診療などの検討は行っていない。
②当面は救急医療・急性期医療の充実を図りたい。</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td>⑮ 地域連携クリティカルパス
福井脳卒中連携協議会に参加し、パスを利用しての県内病院・診療所と相互の紹介・逆紹介を行っていく。</td><td>（脳卒中連携パス　実施状況
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>泉ヶ丘病院</td><td>10</td><td>11</td><td>8</td></tr>
<tr><td>福井総合病院</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td></tr>
<tr><td>嶋田病院</td><td>0</td><td>3</td><td>1</td></tr>
<tr><td>林病院</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr>
<tr><td>計</td><td>18</td><td>17</td><td>13</td></tr>
</table>
</td><td>福井脳卒中連携協議会に参加して、県内病院・診療所との紹介等をを行っている。今後は、がん地域連携クリティカルパス等の利用向上も検討したい。</td><td>△</td><td>△</td></tr>
<tr><td>⑯ 地域貢献
安心して子供を産み育てられるよう小児・周産期医療を維持・強化する。</td><td>（4月1日現在）
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>小児科医</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr>
<tr><td>産婦人科医</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr>
</table>
</td><td>小児科医3名、産婦人科医2名の診療体制を維持している。
平成30年4月には、産婦人科医は3名体制となった。
今後は、高齢者の救急医療体制にも注力していく。</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

経費削減・抑制対策	実　績	進捗の判断	自己評価	委員会評価
① 給与費の抑制 ・人件費に見合う収益を見込める職種以外は増員しない。 ・業務の見直しと効率化により超過勤務手当を削減する。	（人数は４月１日付） 職員数 医師 43（14）人 / 41（13）人 / 46（13）人 職員数 看護師 231（70）人 / 243（64）人 / 245（65）人 職員数 医療技術員 74（6）人 / 80（7）人 / 82（7）人 職員数 事務・他 88（52）人 / 93（62）人 / 100（55）人 職員数 計 436（142）人 / 457（146）人 / 473（140）人 医業収益 6,436,764千円 / 6,533,390千円 / 6,694,909千円 給与費 3,565,382千円 / 3,615,826千円 / 3,761,523千円 対医業収益比（%） 55.4% / 55.3% / 56.2% 超過勤務手当 215,744千円 / 204,391千円 / 206,802千円 対医業収益比（%） 3.4% / 3.1% / 3.1%	再任用制度導入に伴い、退職後において本人希望により1年毎（2年間～3年間）契約で再任用している。職種としては看護師、看護補助員、事務職員等で、平成29年度からは正職員としての任用となっている。 入院患者数増に伴い、医師、看護師などの超過勤務手当は増傾向とはなるが、職員数も増となっているなかで医業収益も増となっており、対医業収益比においては横ばいとなってる。	△	△
② 経費の削減 ・薬品費については値引き交渉を強化する。 材料費については「診療材料検討委員会」の組織と権限を強化し、材料の適正使用と節減に努めている。 経費については、医療機器等の保守契約の見直し、委託費・光熱水費の削減を図る。	平成27年度 / 平成28年度 / 平成29年度 薬品費 636,949千円 / 704,855千円 / 711,765千円 対医業収益比（%） 9.9% / 10.8% / 10.6% 診療材料費 468,995千円 / 420,817千円 / 420,209千円 対医業収益比（%） 7.3% / 6.4% / 6.3% 経費 844,620千円 / 823,524千円 / 815,353千円 対医業収益比（%） 13.1% / 12.6% / 12.2% うち委託費 460,523千円 / 452,284千円 / 430,322千円	①薬品費については、入院患者数増となったことより購入額は増となっている。毎年、薬品の値引き交渉により大幅な抑制を行っている。また、後発品の使用により購入額を抑えることにも努力している。 ②診療材料費については、SPD導入により在庫管理、定数管理の強化を図り、安価な同等品への移行等については、院内の診療材料検討委員会等にて検討し、導入・採用としている。 ③経費・委託費については、医療機器等の保守については前年度の内容見直しを実施し、修理部品等の費用を含めず、また、院内での臨床工学技士による保守管理体制を強化させ、全てが業者任せとならないよう努力した。	○	○

<table>
<tr><th>収入増加・確保対策</th><th>実　績</th><th>進捗の判断</th><th>自己評価</th><th>委員会評価</th></tr>
<tr><td>① 診療報酬の査定、請求漏れを減少させる。</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>国　　保</td><td>△10,999千円</td><td>△10,462千円</td><td>△11,750千円</td></tr>
<tr><td>社　　保</td><td>△5,147千円</td><td>△4,745千円</td><td>△4,847千円</td></tr>
<tr><td>合　　計</td><td>△16,146千円</td><td>△15,208千円</td><td>△16,598千円</td></tr>
<tr><td>保険請求額（年間）</td><td>5,218,652千円</td><td>5,347,167千円</td><td>5,518,818千円</td></tr>
<tr><td>査定率（年）</td><td>△0.31%</td><td>△0.28%</td><td>△0.30%</td></tr>
</table>
</td><td>「レセプト博士」というシステムでレセプトチェックを行っているが、適切な病名や検査の必要性についての記載を行っているにもかかわらず、審査機関で減点されるものがある。チェック漏れを無くし再審査請求を行う等、体制強化に努めている。</td><td>△</td><td>△</td></tr>
<tr><td>② 人間ドック等の健診収益の増加を図る。</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>件　　数</td><td>1,412</td><td>1,515</td><td>1,556</td></tr>
<tr><td>年間目標数</td><td>1,449</td><td></td><td>1,600</td></tr>
<tr><td>金　　額</td><td>55,378,652</td><td>57,860,339</td><td>58,050,972</td></tr>
</table>
</td><td>人間ドック等の受診者数を増やすため、市内の企業を訪問した。また、病院議会でのパンフレット配布、健診事業のＰＲを実施。
また、平成29年度から協会けん保の枠を拡充し受診者数を増やした。</td><td>△</td><td>△</td></tr>
<tr><td>③ 病棟稼働率の増による入院収益確保。</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr>
<tr><td>救命救急病棟</td><td>65.8%</td><td>62.5%</td></tr>
<tr><td>一般病棟</td><td>89.0%</td><td>90.2%</td></tr>
<tr><td>地域包括ケア病棟</td><td>90.6%</td><td>91.3%</td></tr>
<tr><td>療養病棟</td><td>76.0%</td><td>73.4%</td></tr>
<tr><td>（西館3階）</td><td>(87.6%)</td><td>(90.0%)</td></tr>
<tr><td>（西館4階）</td><td>(64.2%)</td><td>(56.8%)</td></tr>
<tr><td>精神病棟</td><td>82.2%</td><td>81.2%</td></tr>
<tr><td>（東館2階）</td><td>(87.6%)</td><td>(87.4%)</td></tr>
<tr><td>（東館3階）</td><td>(76.8%)</td><td>(75.0%)</td></tr>
<tr><td>総　　計</td><td>84.0%</td><td>83.7%</td></tr>
</table>
(H29・12まで)
</td><td>平成28年度よりの病棟稼働率において、一般病棟、地域包括ケア病棟においては90%前後を維持しつつも、療養病棟の稼働率が低い状況が続いていたため、救命救急病棟よりの患者、一般急性期患者等が一般病棟での入院が困難なことがしばしば発生していた。
一人一日単価が高い一般病棟、地域包括ケア病棟での入院受入が出来ず、単価の低い療養病棟の空床も埋まらないことを打破するため平成29年度途中より、将来の病床・病棟を有効に利用し入院収益を確保する方策の一つとして、療養病棟の100床のうち50床を一般病棟へ転換させ、一般入院患者の受入体制を強化。
平成29年度途中から次年度以降における入院収益確保の継続対策として動き出した。</td><td>○</td><td>△</td></tr>
</table>

収入増加・確保対策	実　績	進捗の判断	自己評価	委員会評価
④ 紹介入院患者を確保するため、開業医等との連携を強化する。		当院の診療体制・医師変更等がある度に、近隣医療機関（開業医含む）へお知らせをすることにより、スムーズな紹介・逆紹介が得られる。 患者紹介を受入れ、当院での診察・検査・入院・手術等を実施し、軽快退院後には紹介元の医療機関へ逆紹介という一連の流れ、連携を確立させることより、患者の確保・収益確保を図る。	○	○

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
紹介患者数	4,890	4,498	4,552
紹介率	25.4%	27.0%	29.1%
逆紹介患者数	3,074	3,314	3,614
逆紹介率	26.4%	18.2%	22.1%

医療機関別　紹介患者数　（上位10施設）

平成27年度		平成28年度	
本馬医院	386件	本馬医院	335件
田中整形外科医院	313件	小津外科医院	246件
にしお内科クリニック	287件	福井大学医学部附属病院	233件
小津外科医院	266件	田中整形外科医院	220件
名田庄診療所	259件	名田庄診療所	209件
福井大学医学部附属病院	205件	千葉医院	200件
千葉医院	205件	にしお内科クリニック	188件
上中診療所	197件	まつき歯科医院	185件
舞鶴共済病院	181件	若狭高浜病院	174件
おおい町総合診療所	181件	上中診療所	161件
平成29年度			
本馬医院	305件		
小津外科医院	304件		
福井大学医学部附属病院	281件		
名田庄診療所	246件		
若狭高浜病院	220件		
まつき歯科医院	181件		
千葉医院	180件		
しんたにクリニック	156件		
にしお内科クリニック	152件		
上中診療所	150件		

収入増加・確保対策	実　績	進捗の判断	自己評価	委員会評価

医療機関別　逆紹介患者数　（上位10施設）

平成27年度		平成28年度	
福井大学医学部附属病院	321件	福井大学医学部附属病院	360件
本馬医院	196件	舞鶴共済病院	205件
舞鶴共済病院	176件	本馬医院	196件
京都大学医学部附属病院	170件	京都大学医学部附属病院	150件
小津外科医院	106件	まつき歯科医院	146件
上中診療所	106件	にしお内科クリニック	125件
名田庄診療所	103件	小津外科医院	95件
千葉医院	86件	名田庄診療所	87件
まつき歯科医院	83件	上中診療所	85件
おおい町総合診療所	80件	千葉医院	81件

平成29年度	
福井大学医学部附属病院	425件
舞鶴共済病院	241件
本馬医院	190件
京都大学医学部附属病院	161件
まつき歯科医院	144件
名田庄診療所	128件
上中診療所	119件
にしお内科クリニック	102件
若狭高浜病院	97件
千葉医院	95件

＊1　ＤＭＡＴ…医師・看護師・医療職及び事務職員で構成され、大規模災害等が発生した事故などの現場に、急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会　委員名簿

区　分	氏　名	所属団体・役職等
委員長	白　髪　　昌　世	広島国際大学医療経営学部医療経営学科特任教授
委　員	濱　詰　　健　二	小浜信用金庫理事長
委　員	一　瀬　　亨	小浜医師会　会長
委　員	岡　　正　人	小浜市民生部長
委　員	大 江　有 利 子	小浜市連合婦人会　会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会　開催日

平成３０年９月１１日（火）　午後６時より　　杉田玄白記念公立小浜病院　９階会議室